

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32660

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370374

研究課題名(和文)世界文学としてのアンデルセン『人魚姫』の超領域的研究と教養教育への応用モデル

研究課題名(英文)Andersens The Little Mermaid as a work of world literature. Transdisciplinary research and modeling for application in liberal arts education

研究代表者

中丸 禎子(Nakamaru, Teiko)

東京理科大学・理学部第一部教養学科・准教授

研究者番号：50609287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：言語・時代の枠組みを超えた文学の超領域的研究と、教養教育・社会人教育における研究成果の還元モデルの確立を目的に、各研究者がアンデルセン『人魚姫』に内包される諸テーマを緩やかに共有した。個々の研究者が「人魚姫」「世界文学」「教養教育」などのテーマで成果を発表した。また、ブース発表「人魚」文学を扱う授業の実践報告「多言語文学間の共同研究と教養教育への還元モデル」、シンポジウム「異界との交流」、シンポジウム「高畑勲の《世界》と《日本》」(映画監督・高畑勲氏を招聘)において、共同・連名で成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：This project has two aims: The first is to collaborate with scholars studying literature in various languages, as opposed to the literary research approach of studying literature from a single language, country, or era. The second aim is to develop a model that directly reflects research results in the liberal arts. With a common interest in The Little Mermaid by H. C. Andersen, the present researchers examined concerning themes such as human-animal, marriage, gender, and translation. Further, we held classes designed to deepen the students' understanding of literary research methodologies. Every project participant created presentations and wrote articles about the subjects. In addition, we collaboratively created a presentation titled 'Practical report of our classes on "Merfolk Literature"'. We also held a public symposium on 'Communicating with the Otherworld,' and 'World and Japan for Isao Takahata', which the film director himself attended.

研究分野：北欧文学

キーワード：異なる言語 人魚姫 異界との交流 映像 受容 世界文学

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は北欧文学を研究し、ドイツ文学、比較文学、北欧学の学会で成果を発表してきた。専門とは必ずしも一致しない学会に所属することで、北欧文学研究だけでは得難い幅広い視野を獲得した。一方、文学研究が「ドイツ文学」「フランス文学」「日本文学」など、言語や政治的地域によって分断され、他言語・他分野の研究者との情報共有・意見交換の機会が少ない状況で、他言語文学、福祉、教育、歴史など他の専門分野の研究者に研究成果を還元する難しさに直面した。

代表者はまた、東京理科大学でドイツ語および文学科目を担当し、理系など文学以外を専門とする学生に研究成果を還元する難しさに直面した。

このように、文学研究および文学研究者による大学教育の現場では、専門化・分業化が進み、専門的な研究の成果は専門研究者同士で共有され、教育の場への還元の際には専門学生・大学院生など比較的専門性の高い教育対象に限定されることが多い。これに対し、専門課程以外の学生を含めた幅広い学生および学外の社会人を対象とした教養教育（リベラル・アーツ）においては、専門研究の成果のフィードバックや超領域的な文学教育が求められている。

2. 研究の目的

1. を受けて、代表者は、秋草俊一郎、加藤敦子、兼岡理恵、川島隆、田中琢三、中島亜紀（西岡亜紀）を研究分担者として招聘した。分担者は、異言語間の比較研究や受容論・メディア論・表象文化論などテキスト分析以外の研究方法の実績があり、授業や学会発表の場での視聴覚資料の積極的活用においても高い評価を得ている。当研究の目的は、各メンバーが研究成果を担当授業にリアルタイムに盛り込み、そこで得られた知見を当研究会に持ち寄ることで、諸言語文学研究の枠組みを超えた超領域的な研究を実現し、その成果を教育の場へ還元するモデルを構築し、教育メソッドを理論化することである。

3. 研究の方法

当研究課題では、アンデルセン『人魚姫』

を軸に、対象言語が異なる研究者同士が連携して研究を行った。『人魚姫』を共通項とした理由は、同作の4つの特徴にある。

- A) モチーフの普遍性：人魚は各時代・地域の文学や芸術作品で表象される。異なる言語の文学間での比較に意義と必要性のあるモチーフである。
- B) マイナー言語作品：デンマーク語で書かれながら世界文学たりえている同作を中心軸とすることで、メジャー言語を中心とする従来の文学研究の視座の転換を図ることができる。
- C) テーマの複合性：同作は、①作品モチーフとして身体（脚部障害、半人半獣、声、痛み）・自然（太陽、海、空気）、②作品背景として社会・歴史（階級、マイノリティ、制度）、③研究方法として翻訳・受容・教育など、広い分野で問題意識を喚起する。その複合的な性格ゆえに、多角的なテーマでの研究が可能・必要である。
- D) 教養教育への適合性：絵本や映画などで広く知られ、手ごろな分量である。平易なテキストでありながら多様な解釈が可能で、受講者にあったレベル設定ができる。

研究者・分担者は、『人魚姫』に包含される諸テーマを緩やかに共有し、その視点をそれぞれの専門研究に反映することで研究を超領域化する。具体的には、『人魚姫』と関連する複数のテーマのうちから各自の専門と関わるテーマをいくつか選択し、そのテーマを他のメンバーと共有しながら研究を進める。また、それぞれの教育現場において、以下の授業を行う。

- A) 一般の学生に対しては、作品とその伝記的・社会的・文学的背景を紹介する入門的な授業
- B) 文学部学生・進学予定者に対しては、専門教育を見据え、文学研究の方法論を自覚させる授業

授業実践を通じて有効な教材や映像資料の活用方法の情報を蓄積する。その情報を代表者・分担者が共有することで、研究成果を教育の場へと還元するモデルを構築する。

《役割分担》

氏名	共同研究のテーマ (例)											
	脚部 障碍	ジェ ンダー	ダー ウイ ニズ ム	翻 訳 論	受 容	ポ ス ト コ ロ ニ ア リ ズ ム	自 然	説 話	演 劇	図 像 比 較	教 育 史	東 西 比 較
中丸	◎	○	○	○	○	○	○	○	○			○
鞆				◎	○	○						○
加藤								○	◎	○		○
蕎					○			◎		○	○	○
川島	○	◎	◎		○	○	○					○
甲						◎			○			○
西岡		○			○		○	○	○	◎	○	○

4. 研究成果

当研究の主な成果のうち、代表者・分担者が連名で発表したの以下3点である。

(1) 日本独文学会秋季研究発表会ブース発表「人魚」文学を扱う授業の実践報告—多言語文学間の共同研究と教養教育への還元モデル」(5. 主な発表論文等 14.)

これまでの授業成果および情報共有・意見交換を踏まえ、2014年度前期に代表者・分担者が担当した授業とその成果を具体例として報告し、相互の比較を行った。

- A) 田中(仏文学)：文系学生対象のヨーロッパ文学講義
- B) 川島(独文学)：文学部の比較文学講義
- C) 中丸(北欧・独文学)：理系学生対象の教養ゼミ

※いずれの授業でも『オデュッセイア』、フケー『ウンディーネ』、アンデルセン『人魚姫』、ジロドゥ『オンディーヌ』など「人魚」文学を扱い、各作品の解釈を「作家研究」「比較研究」「ジェンダー論」など文学研究の方法例として提示した。

報告およびディスカッションを通じて教養教育のメソッドの確立に貢献した。

(2) お茶の水女子大学第18回国際日本学シンポジウム「イメージと伝達の国際日本学」セッションI「異界との交流」(5. 主な発表論文等 11.)

『人魚姫』およびその文化的背景である

人魚伝説は、異類婚姻譚に体系づけられる。本企画では異類婚姻譚から「異界との交流」譚を対象を広げ、異類婚姻譚の東西比較研究の第一人者である篠田知和基、韓国と日本の伝承の比較研究を行う若手研究者の高永爛を招聘した。田中(企画・司会)、篠田、兼岡、高、加藤、中丸が登壇し、一般公開シンポジウムを開催した。

当企画では、「異界との交流」を媒介に、異なる時代(古代、上代、中世、近世、近代)、地域・言語(日本、韓国、フランス、北欧)、ジャンル(神話・伝説、説話、小説、舞台芸術)を多角的に論じ、来場者との質疑応答を通じて異なる言語の研究者同士の共同および一般への成果の還元成功した。口頭発表は論文化され(5. 主な発表論文等 6.~9.)、機関リポジトリ「お茶の水女子の大学 教育・研究成果コレクション TeaPot」(<https://teapot.lib.ocha.ac.jp/>)で閲覧できる。

(3) シンポジウム「高畑勲の《世界》と《日本》」(5. 主な発表論文等 49.)

当研究では、世界文学、児童文学、ジェンダー、身体、映像化などのテーマを『人魚姫』と共有するシュペーリ『ハイジ』に着目し、川島が所属する日本ハイジ児童文学研究会とともに『ハイジ』の研究および発表を行った(5. 主な発表論文等 43, 48.)。その成果として、アニメ『アルプスの少女ハイジ』を演出した映画監督・高畑勲氏を招聘し、一般公開シンポジウムを開催した。

高畑氏は、東京大学でフランス文学を専攻した後、アニメ制作の現場で演出を担当した。欧米の児童文学を原作とするアニメ「世界名作劇場」シリーズの演出では生活や感情のリアルな描写で高い評価を得た。キャリアの後半では、日本文化を背景とした製作者独自の表現を目指し、日本を舞台に、日本の伝統的絵画などに着想を得た表現を用いた映画を製作した。シンポジウムでは、フランス文学者の田中の司会のもと、日本文学者の加藤、兼岡がインタビューを行い、日本と西洋の文化に関する高畑氏の知識と解釈、それを背景としたテレビアニメや映画製作の姿勢、高畑氏が思い描く映画の将来像の一端を明らかにした。当シンポジウムは、来場者から高い評価を受け、

以下のメディアで紹介された。

- ◆ 日本経済新聞 2015年9月11日朝刊「文化往来 高畑勲監督、創作と日本アニメを語る」
- ◆ 東京新聞 2015年9月24日朝刊第7面「文化 高畑勲さんシンポ 自身の表現を語る」
- ◆ 兼岡理恵「プロジェクト人魚・日本ハイジ児童文学研究会主催・シンポジウム「高畑勲の〈世界〉と〈日本〉」(5. 主な発表論文等 30.)

シンポジウムを通じて、代表者・分担者は、高畑作品が言語を超えた超領域性の結実であること、文学作品の映像化は文学の受容および解釈の一形態であると理解した。そして、高畑氏が映画作品で提示した表現のあり方や、その背後にある文化・思想を多角的に論じることで、当研究の目的である「超領域的な研究」「教養教育および一般への研究成果の還元方法の確立」が達成できることに思い至った。このことから、「高畑氏の作品との関連」を共通項に、多方面の研究者を招聘し、高畑映画自体を含む諸作品の表現のあり方・歴史・思想を対象に多様な文化を論じる口頭発表会を開催した(5. 主な発表論文等 53.-56, 58, 60)。

(1)～(3)のほか、代表者・各分担者は、個人で行う研究の一部に、当共同研究で得た情報・視点・方法を持ち帰り、その成果を発表した。個々の成果の主なものについては、「5. 主な発表論文等」を参照。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者に下線、*は査読付き、+は招待)

【『人魚姫』関連】

【雑誌・分担執筆書掲載論文】

1. *中丸禎子「人魚姫が浮かび上がるとき アンデルセン『人魚姫』における主体的な女性とデンマークの人魚モチーフ文学における原型」『ドイツ文学』148号、日本独文学会、2014年、pp.129-139
2. +中丸禎子「九頭見和夫『日本の「人魚」像』『日本書紀』からヨーロッパの「人魚」像の受容まで」『比較文学』第56巻、日本比較文学会、2014年、pp.121-125〈書評〉
3. +中丸禎子「見えない人魚を見る方法」『理天 科学フォーラム』2014年12月、pp. 10-13
4. *中丸禎子「博物学の人魚表象—魚、女性、哺乳類—」『比較文学』58巻、日本比較文学会、2016年3月、pp.7-23
5. +中丸禎子「歌って踊って空を飛ぶ ヨーロッパの人魚とアリエル」『ミュージカル『リトルマーメイド』東京・名

古屋共通プログラム』、劇団四季、2016年、pp.30-33

6. 田中琢三「総括」『比較日本学教育研究センター研究年報』第13巻、2017年、pp. 6-7
7. 兼岡理恵「異界との交通—海幸山幸神話を中心に—」前掲書、p. 18-25
8. 加藤敦子「狐女房に見る異界」前掲書、p.31-38
9. 中丸禎子「バレエを踊る人魚姫—「爪先立ち」があらわす異界—」前掲書、p.39-49

【口頭発表・一般公開シンポジウム】

10. 田中琢三「ドヴォルザークのオペラ『ルサルカ』について」プロジェクト人魚第8回研究会、2013年8月7日、於：東京理科大学
11. お茶の水女子大学第18回国際日本学シンポジウム「イメージと伝達の国際日本学」セッションI「異界との交流—一般公開シンポジウム「異界との交流」(2016年7月2日 於：お茶の水女子大学本館)
挨拶：猪崎 弥生(お茶の水女子大学副学長)
趣旨説明・司会：田中琢三
講演①：篠田 知和基(甲南大学人間科学研究所客員研究員)「メリュージエ又伝承から異類婚説話へ」
研究発表①：兼岡理恵「異界との交通—海幸山幸神話を中心に—」
研究発表②：高永爛(韓国・高麗大学校)「韓国文学における異界との交流譚—ドウドウリを中心に—」
研究発表③：加藤敦子「狐女房に見る異界」
研究発表④：中丸禎子「バレエを踊る人魚姫—「爪先立ち」があらわす異界—」

【教養教育関連】

【雑誌掲載論文】

12. 兼岡理恵「菓子葉に関する覚書」『人文研究』41号、2015年3月、pp.169-186

【書籍】

13. 兼岡理恵『「菓子葉」集』(冊子版/電子版大学講義用教材、DNP・丸善雄松堂との共同開発)、2016年

【口頭発表】

14. *中丸禎子・川島隆・田中琢三「「人魚」文学を扱う授業の実践報告—多言語文学間の共同研究と教養教育への還元モデル」、日本独文学会秋季研究発表会、2014年10月12日、於：京都府立大学稲盛記念館

【世界文学関連】

【雑誌・分担執筆書掲載論文】

15. +中丸禎子「ヨナス・ハッセン・ケミーリ『片目は赤』 テン・ブックス編『いま、世界で読まれている105冊』、テン・ブックス、2013年、pp. 102-104
16. 秋草俊一郎「世界文学に抗して」『群像』7月号、2013年、pp. 228-231
17. Shun'ichiro Akikusa: "I could never resist the temptation to scribble on sheets of hotel paper": Where did Nabokov Spend the Night on 19th September 1952?. In: The Nabokovian. 71 (Fall), 2013. pp. 14-16

18. 秋草俊一郎「レキシントンの幽霊」
異聞(早稲田文学)第6巻、2013年、
pp. 467-477
19. *中丸禎子「山室静のラーゲルレーヴ受容 近
代批判と牧歌的な北欧」『比較文学』第56巻、
日本比較文学会、2014年、pp.63-78
20. *川島隆「ゲーテを読むカフカー「大文学」
と「小文学」のはざままで」『モルフォロギ
ア』第35巻、2013年、pp. 86-103
21. *川島隆「マウトナーのナショナルイズ
ム思想の展開—言語批判と「母語」礼
賛のはざままで」『日本独文学会研究叢
書』第97巻、2013年、pp. 38-53
22. *川島隆「マウトナーの二つのポヘミ
ア小説—同化ユダヤ人の「母語」と民
族アイデンティティをめぐる」『ナ
マール』第18巻、2013年、pp. 51-61
23. +リーッカ・タンネル、中丸禎子(インタ
ビュー)、森下圭子(通訳)「最後に始
めた新しいこと トーベとトゥーリッキ
の共同作業」『ユリイカ』2014年8月号(特
集=ムーミンとトーベ・ヤンソン)、青土
社、2014年、pp.122-127
24. +中丸禎子「北の孤島の家族の形 海、自分
だけの部屋、モラン」前掲書、pp.128-141
25. +中丸禎子「トーベ・ヤンソン年表」
「著作リスト」前掲書、pp.226-240
26. 秋草俊一郎「カノンをはかる——「世
界文学全集」に見る各国別文学の受容
の移り変わり」『世界文学』第120巻、
2014年、pp. 65-76
27. +中丸禎子「クリスマスと復活祭」(第
6章 45/pp.200-203)、「エコロジー」(第
6章 49/pp.216-219) 宮田眞治・畠山
寛・濱中春編『ドイツ文化55のキーワ
ード』、ミネルヴァ書房、2015年
28. *中丸禎子「絵を描くムーミンママ—
トーベ・ヤンソン『パパと海』におけ
る女性の芸術と自己実現」『詩・言語』
81号、東京大学大学院人文社会系研究
科ドイツ語ドイツ文学研究会、2015
年、pp.213-235
29. 兼岡理恵「言葉の息づかい、佇まい—
伊藤比呂美訳『日本霊異記』『リポー
ト笠間』59号、2015年、pp.17-20
30. 兼岡理恵「プロジェクト人魚・日本ハイ
ジ児童文学研究会主催・シンポジウム
「高畑勲の《世界》と《日本》」『リポー
ト笠間』59号、2015年、pp.104-106
31. 秋草俊一郎「カノンを輸入する——『ハー
ヴァード・クラシックス』と円本全集」『比
較文学』第57巻、2015年、pp. 51-65
32. 川島隆「アルプスという名の神」青地伯
水編著『映画でめぐるドイツ ゲーテか
ら21世紀まで』松籟社、2015年
33. +中丸禎子「スウェーデン映画『六月の
四週間』 統合されないポーランド移民」
奥彩子・西成彦・沼野充義編著『東欧の
想像力』、松籟社、2016年、pp.71-72
34. *田中琢三「戦時下の日本におけるモー
リス・パレスの受容について」『お茶の
水女子大学 人文科学研究』第12巻、お
茶の水女子大学、2016年、pp. 131-140
35. *秋草俊一郎「ナボコフとハー— ト
ランス・アトランティックな想像力が
トランス・パシフィック な想像力と
出会うところ——あるいは文学的バ
タフライエフェクト」『れにくさ』第6
巻、2016年、pp. 333-346
36. 西岡亜紀「福永武彦におけるボードレ
ール——研究と創作のあいだ」坂巻康
司編『近代日本とフランス象徴主義』
水声社、2016年
37. +中丸禎子「父の娘」のノーベル文学
賞「セルマ・ラーゲルレーヴ『ニルス
の不思議な旅』が描く国土と国民のカ
ノン」『文学』第17巻第5号/2016
年9・10月号、岩波書店、2016年、
pp.89-113
38. 川島隆「革命なんかに入らなければ
よかった!」——ヨハンナ・シュピー
リ後期作品に見る労働運動のモチー
フ」青地伯水編著『文学と政治 近現
代ドイツの想像力』、松籟社、2017年、
pp. 209-232
39. *田中琢三「政治的事件としてのゾラ
のパンテオン葬」『お茶の水女子大学
人文科学研究』12巻、お茶の水女子大
学、2018年、pp. 109-119
- 〔書籍〕
40. ちばかおり・川島隆編著『図説アルプス
の少女ハイジ』『ハイジ』でよみとく
19世紀スイス』河出書房新社、2013年
41. 小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編著『ア
イスランド・グリーンランド・北極を知
るための65章』、明石書店、2016年
42. ジャン=ミシェル・ヴィスメール著、川
島隆訳『ハイジ神話—世界を征服した
「アルプスの少女」』晃洋書房、2015年
- 〔口頭発表・一般公開シンポジウム〕
- ※東京理科大学開催の場合は場所の記載を省略
43. プロジェクト人魚第10回研究会(2014
年3月27日)
開会挨拶・司会：川島隆
発表①：ペーター・ビュトナー(北京
航空天大学)「ヨハンナ・シュピーリ
の初期作品をめぐる」
発表②：アルフレート・メッサーリ(チ
ューリヒ大学)「「郷愁」の社会史とシ
ュピーリの『ハイジ』」
発表③：西岡亜紀「スタジオブリの出発点
としてアニメ『アルプスの少女ハイジ』」
44. +Takashi Kawashima; Jean-Michel
Wissmer: Comment expliquer la relation
privilegiee entre le Japon et la Suisse ?
Heidi et sa creatrice Johanna Spyri. 28eme
Salon du livre et de la presse, Geneve. 2014
年04月30日、於：Parlexpo
45. 秋草俊一郎「アメリカ版「世界文学全
集」のなかの日本文学」プロジェクト
人魚第12回研究会、2014年9月4日
46. 日本児童文学学会12月例会(2014年12月
13日、於：日本フラワーデザイン専門学校)
発表①：川島隆「ヨハンナ・シュピー
リ『ハイジ』の宗教性」
発表②：中丸禎子『ニルスのふしぎな
旅』におけるスウェーデンの近代化とセ
ルマ・ラーゲルレーヴの国家観」
47. +秋草俊一郎「日本文学はどれぐらい世
界文学なのかという問いと、世界文学は
どれぐらい日本文学なのかという問い
について」第11回21世紀文学部フォー

- ラム 「越境する世界文学」、2015年1月7日、於：熊本大学
48. プロジェクト人魚第15回研究会(2015年3月15日)
開会挨拶・司会進行：中丸禎子
講演①：ジャン＝ミシェル・ヴィスメール(作家)「クララが立った～牛が運んだ奇跡～」
講演②：川島 隆「アニメ吹替版の東西比較」
講演③：若松 宣子(中央大学)「絵本になったハイジ」
49. シンポジウム「高畑勲の《世界》と《日本》」(2015年9月1日)
開会挨拶・趣旨説明：中丸禎子
司会：田中琢三
展示：日本ハイジ児童文学研究会「高畑勲の「ハイジ」とその前・後」
口頭発表①：中丸禎子「赤毛と靴とストッキング 『長くつ下のピピ』とく世界の名作」
口頭発表②：西岡亜紀「個を持った少女の憂愁—『かぐや姫の物語』『おもひでぼろぼろ』など」
インタビュー・ディスカッション：ゲスト 高畑勲 インタビュアー 加藤敦子・兼岡理恵
開会挨拶：ちばかおり(日本ハイジ児童文学研究会)
50. +Teiko Nakamaru: Disability and Disease in Selma Lagerlöfs Märbacka and Jerusalem. In: Lagerlöf in Japan. Between Modernity and Tradition. International Symposium. 20. November 2015, Josai University, Tokyo
51. +Takashi Kawashima: Die Rezeption von Heidi in Japan und die Wiederaufnahme der japanischen Zeichentrickfilmversion in Europa. OAG Deutsche Gesellschaft für Natur- und Volkerkunde Ostasiens, Vorträge und Gesprächsabende. den 22 April 2015, OAG-Bibliothek
52. +Rie Kaneoka : Conceptualizing Deities and Nature in Ancient Japan. Asian Studies 4th Japanese Studies Lecture Series. 15. March 2016, University of Cincinnati, USA
53. プロジェクト人魚第24回研究会(2016年9月13日)
発表①：中丸禎子「赤毛と靴とストッキング—『長くつ下のピピ』とく世界の名作」
発表②：川島隆「ドイツに《逆輸入》された『アルプスの少女ハイジ』」
発表③：縄田雄二(中央大学)「幻燈劇としてのゲーテ『ファウスト』再考」
54. 「小田部羊一さん、中島順三さんを囲む座談会」(2016年10月29日)
ゲスト：小田部羊一(『アルプスの少女ハイジ』キャラクター・デザイン)、中島順三(『アルプスの少女ハイジ』プロデューサー) インタビュアー：兼岡理恵、田中琢三 司会：田中琢三、中丸禎子
55. プロジェクト人魚第26回研究会(2017年3月4日)
発表①：ちばかおり(日本ハイジ児童文学研究会)「『母をたずねて三千里』演出論～

- マルコはハイジと夢をみる～」
- 発表②：中野貴文(東京女子大学)「走る女と忘れられた帝」
- 発表③：佐藤宗子(千葉大学)「ブックガイドから見た「世界」の「文学」——無着成恭の選定と岩波・福音館の児童書——」
56. プロジェクト人魚第27回研究会(2017年3月28日)
発表①：田中琢三「高畑勲とフランス」
57. +佐藤弘夫・田中琢三・野口哲也「異界との往来：幽霊・妖怪・精霊のすむところ」都留国際文学祭 Tsuru International Literary Festival 2017
58. 2017年プロジェクト人魚第29回研究会(2017年9月16日)
発表①：加藤敦子「日本文化に継承される狸の表象——『平成狸合戦ぽんぽこ』を手がかりとして」
発表②：鈴木彰(立教大学)「くさの庭」と戦場のあわい——『平家物語』という窓から——」
発表③：西岡亜紀「『かぐや姫の物語』における時間の表象——記憶をテーマとした20世紀小説との接点——」
59. 竹内修一(コーディネーター)、福田美雪・田中琢三(パネリスト)「パンテオンと作家たち」、日本フランス語フランス文学会2017年度秋季大会、2017年
60. プロジェクト人魚第30回研究会(2018年3月13日)
発表①：井上征剛(山梨英和大学)「放送劇音楽としての『母をたずねて三千里』付随音楽」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中丸 禎子 (NAKAMARU, Teiko)
東京理科大学・理学部第一部・准教授
研究者番号：50603287

(2) 研究分担者

秋草 俊一郎 (AKIKUSA, Shun'ichiro)
日本大学大学院・総合社会情報研究科・准教授
研究者番号：70734896

加藤 敦子 (KATO, Atsuko)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：40625448

兼岡 理恵 (KANEOKA, Rie)
千葉大学・大学院人文社会科学部研究科・准教授
研究者番号：70453735

川島 隆 (KAWASHIMA, Takashi)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10456808

田中 琢三 (TANAKA, Takuzo)
お茶の水女子大学・基幹研究院・助教
研究者番号：50610945

中島 亜紀(西岡 亜紀) (NAKAJIMA/NISHIOKAaki)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：70456276